

高橋 衛 (たかはし・まもる) 先生

株式会社三菱総合研究所システムエンジニアリング本部流通・
物流ソリューショングループ兼経営コンサルティング本部
産業戦略グループ 研究主務

【所属・資格】システムエンジニアリング本部 (兼)

経営コンサルティング本部 主任研究員

【学歴】

1981 年 3 月 早稲田大学政治経済学部政治学科卒業

【職歴】

(1977~1981 年株式会社オリジナル・コンフィデンス=当時)

1981 年 4 月 日本ビクター株式会社

オーディオ事業部企画室(1989 年 1 月退社)

1989 年 2 月 株式会社三菱総合研究所入社

2008 年度 法政大学経済学部 兼任講師

～現在に至る

【専門分野】流通・物流・マーケティングに関連した調査、コンサルティング(自動車、家電など幅広い業界を含む)

【参考文献・参考になるHP】

経済産業省ホームページ所収 http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2010fy01/E001135.pdf

平成 21 年度創造産業国際展開支援事業 (欧州における音楽産業等の消費動向調査)



《講義概要》

株式会社三菱総合研究所システムエンジニアリング本部兼経営コンサルティング主任研究員として幅広い業界の調査、コンサルティングに携わる高橋衛氏が、欧州の音楽産業について講義を行った。

講義の冒頭は、現地での写真を多数提示しながら、2000 年より毎年 7 月にフランスで開催されているジャパンエキスポについて具体的に紹介。マンガやアニメを中心とした日本のポップカルチャーが年々人気を博しており、動員数も右肩上がりである実態を示した。

その後、フランス、イギリス、ドイツ、北欧諸国の音楽産業の消費動向について、各国の詳細なデータと現地調査の写真を提示し、音楽業界の概要や音楽の市場状況など、様々な角度から分析した。また、欧州諸国において日本のマンガやアニメはマス市場で定評があるのに対し、音楽のマスマーケティングの展開は難しい現状であることを説明し、今後の音楽輸出について、その可能性と課題を示した。欧州諸国に対する日本の音楽産業のあり方について、学生が深く考えるきっかけとなった。

《受講生の感想》

●同じヨーロッパでも音楽に対する姿勢や状況、日本に対する市場環境がこんなにも違うことに驚きました。私は国境を越えて良い音楽は共有されるべきだと思っているので、せつかくの配信技術、ネット環境を活かす戦略を発展させていくことが、より大切になってくるのではないかと思います。

立命館大学・文学部・3年生

●フランスで日本のコンテンツがこれほど受け入れられていることを初めて知り、特に **Japan Expo** という日本に特化したイベントが行われていることに驚きました。日本の楽曲をヨーロッパでプロモーションしていくには、技術の進んでいる現在は、**Web** を使う、もしくはもっと国が援助して現地での直接的なプロモーションのできる環境を作ることがとても大切であることを感じました。

立命館大学・映像学部・2年生

●欧州諸国においてCDの売上減少している原因の一つにインターネット上のダウンロードの拡大が挙げられることを知り、日本のみでなく、世界的に違法ダウンロードは問題であることを改めて感じました。

立命館大学・映像学部・3年生

●これから更に日本文化を欧州諸国などに広めていくときに、日本は文化を受け入れてもらうことだけを考えるのではなく、その際にどのように著作権を守り、制作者を守るのかについても考える必要があると感じました。

立命館大学・産業社会学部・1年生

●アジアの音楽産業については学ぶ機会がありましたが、ヨーロッパの話については初めてで新鮮でした。欧州諸国もあまり音楽市場において景気が良いとは言えませんが、音楽を他のサブカルチャーと関連させて（マンガ・アニメ等とのコラボ）、もっとニーズを増やしていける可能性はあると感じました。

立命館大学・産業社会学部・4年生

●日本の音楽を流行に乗せて一つの輸出エンタテインメント産業として成立させるためには、日本のアーティストが欧州でライブを行うなど自ら近づいていくという姿勢が求められていること、海外でのアーティストの活動を支える体制を整えていくことが重要であることが分かりました。

立命館大学・産業社会学部・3年生

